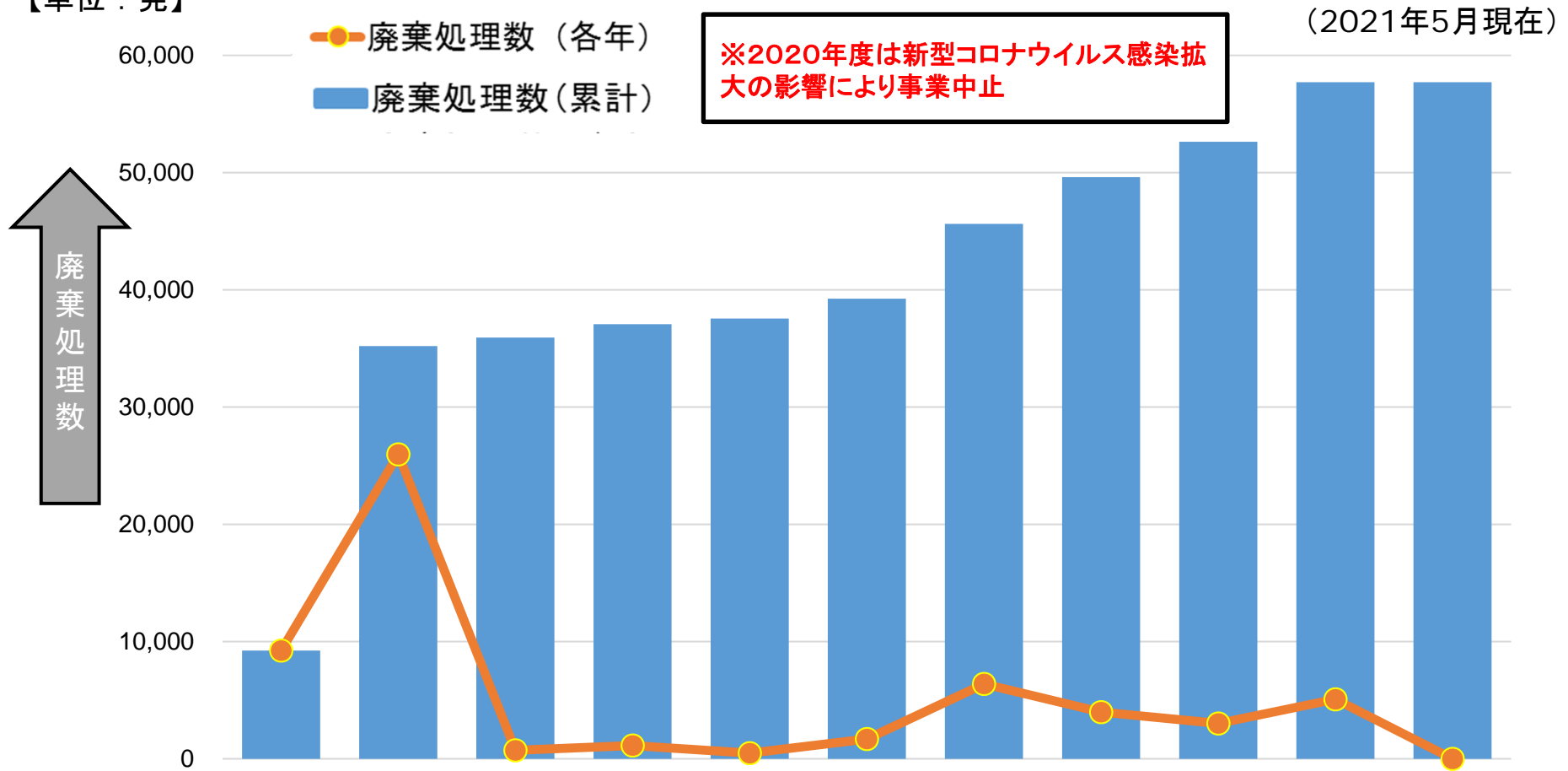


# 2. 移動式廃棄処理事業

別添2

## (1) 廃棄処理数の実績推移

【単位：発】



年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
廃棄処理数(各年)	9,229	25,974	728	1,133	486	1,690	6,384	3,983	3,015	5,079	0
廃棄処理数(累計)	9,229	35,203	35,931	37,064	37,550	39,240	45,624	49,607	52,622	57,701	57,701

## (2) ハルビン事業

### 【経緯等】

- 現行廃棄計画(2017年3月採択)において、ハルバ嶺を除き、北部に残存する遺棄化学兵器について、移動式廃棄処理設備により2022年までにハルビンで処理することに合意。
- 2013年に処理場の設計等を開始、2015年に敷地造成等、2017年に処理場内の建物等の建設に着手し、2019年に竣工、2019年5月から廃棄処理を開始。

### 【進捗状況・今後の予定等】

- 2019年度(初年度):1,828発の廃棄処理を終了。
- 2020年度はコロナの影響を受け休止。2021年度の事業開始時期については、現在日中間でコロナの状況を踏まえつつ調整中。
- 2022年までにハルビン周辺の砲弾を含む砲弾約5,000発を廃棄予定。

チャンバー



設備収納庫



ハルビン処理場全景



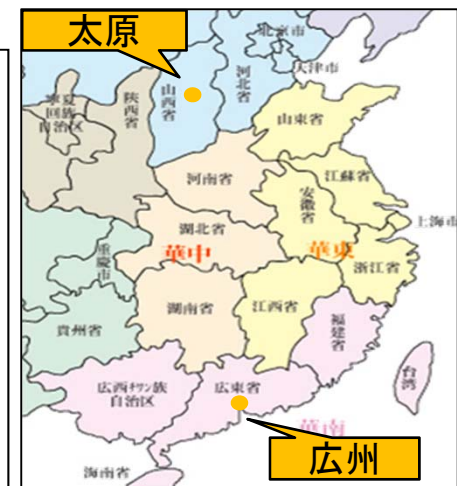
### (3) 高機動型処理設備の導入（広州、太原への展開）

#### 【経緯等】

- 現行廃棄計画（2017年3月採択）において、広州及び太原の遺棄化学兵器について、移動式廃棄処理設備により2022年までに処理することに合意。
- 従来と比してより機動的且つ効率的に処理を実施ができる「高機動型移動式処理設備」を開発し、広州及び太原事業での導入を決定。

#### 【進捗状況・今後の予定等】

- 2019年度に両処理場の用地が確定。2021年度前半に造成工事を実施予定。
- 現在、運用面などについて具体的な計画を調整中。
- 2021年後半に広州で、その後に太原で事業を実施予定。それぞれ約300発の砲弾の廃棄を予定。



	令和3(2021)年								令和4(2022)年																
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
広州処理場			処理場造成工事							廃棄処理															
太原処理場				処理場造成工事											設備の輸送		廃棄処理								

### (3) 高機動型処理設備の導入 (設備の概要)

#### 【高機動型のメリット】

より少ない用地面積に、より短期間で、よりコンパクトな設備・人員をもって展開・撤収可能

項目	現行の移動式処理設備	高機動型処理設備
処理場面積	30,000m <sup>2</sup> 程度(最小の石家荘の場合)	14,000m <sup>2</sup> (広州)(半分以下)
建設期間	最低でも1年半(ハルビンでは6年)	約4か月(用地造成)+18日(施設設置)
処理場の形態	大規模な造成・堅牢な施設	最小限の用地造成・ユニットコンテナの組み合わせ
要員数	45名程度	23名程度(半分以下)
設備	制御爆破方式	加熱爆破方式

展開した設備全景(概要)  
後方は処理設備の格納テント



高機動処理設備 I 型爆破チャンバー



高機動処理設備 II 型  
きい剤補給容器(200Lドラム缶)装荷



コンテナ外観(設備収納時)



## (4) 遼源事業

### 【経緯等】

- 1970年代初頭、大量(74トン)の化学剤が石灰と混ぜられた状態で2基の貯液槽に貯蔵された。
- 2011年、外務省調査の結果、旧日本軍の遺棄化学兵器としてOPCWに申告。
- 現行廃棄計画(2017年3月採択)において、2022年中に廃棄のための技術的事項及び適切な廃棄方法に関する検討を了し、廃棄計画の作成を行うことに合意。
- 2017年より内閣府による調査を開始(保管庫周辺の状況調査、土量調査)。

### 【進捗状況・今後の予定等】

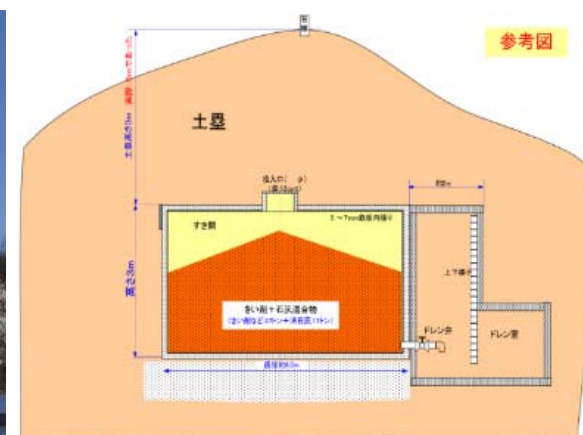
- 貯液槽内の内容物の詳細調査を実施予定。
- 貯液槽の躯体調査を実施し、コンクリートの健全性等を確認予定。
- 貯液槽を覆っている上部土砂の全面除去に向けた計画を策定予定。



保管庫(テント)の外観



地下貯液槽(参考図)



## (5) 砲弾輸送・廃棄物輸送 (実績及び予定)

### ① 砲弾輸送

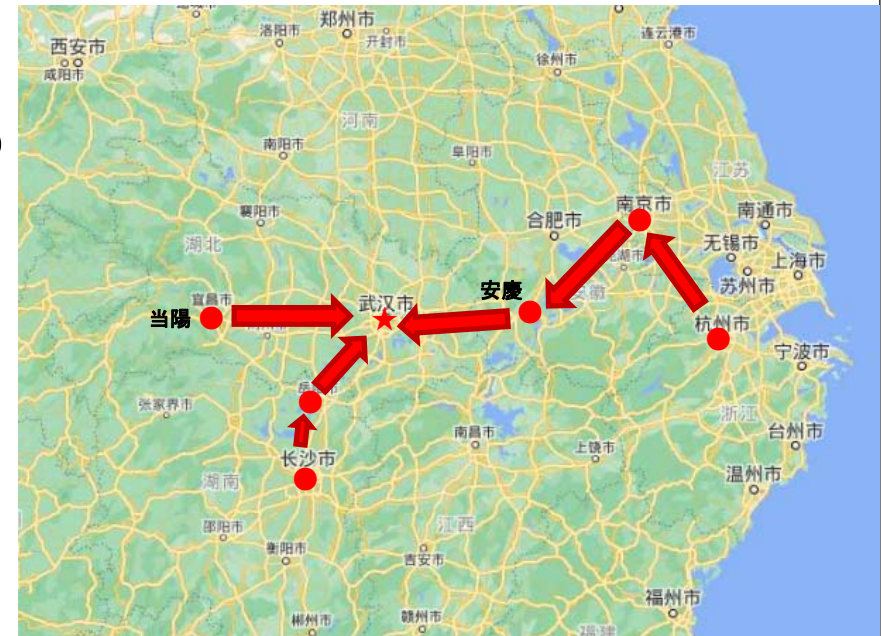
各地で回収された遺棄化学兵器を、廃棄処理のため処理場・保管庫等に輸送し集約する。

○2020年度実績: 武漢集約砲弾輸送(11月)

武漢処理場へ周辺6地域(杭州、南京、安慶、岳陽、長沙、当陽)の保管庫に保管されている遺棄化学兵器砲弾を輸送。

○2021年度予定 (いずれも調整中)

- ・チチハル、尚志、瀋陽等の中国東北部の各地保管庫からハルビン処理場への輸送
- ・南寧、広州保管庫から、高機動型移動式処理事業の広州処理場へ輸送



武漢集約砲弾輸送の経路

### ② 廃棄物輸送

○2020年度実績: 石家荘廃棄物輸送(10月～11月)

石家荘処理場にて2012年～2017年に廃棄処理及び除染事業を行った際に発生した危険廃棄物等をハルビン処理場及びハルバ嶺処理場へ輸送。

## (5) 砲弾輸送・廃棄物輸送（最終処分）

### ③ 南京廃棄物のパイロット輸送

○南京における廃棄処理事業によって発生し、南京保管庫に保管中の廃棄物約20トン、ドイツの処分場に試験的に輸送し、最終処分を行う事業について、中国関連当局への申請手続きを開始した（今後、南京保管庫における廃棄物の梱包状態の確認検査等を実施予定）

○廃棄物の国際移動に関する条約並びに中国・ドイツの国内法に従い輸出入手続きを行い、2021年度中の輸送、最終処分の完了を目指している。



燃焼処理された砲弾残渣、焼却灰



輸送梱包済み廃棄物（南京保管庫）